

令和3年度第1回花巻市文化財保存活用地域計画策定協議会会議録

1 開催日時

令和3年11月15日（月） 午前10時～午前11時45分

2 開催場所

石鳥谷総合支所 3階 大会議室

3 出席者

(1) 委員 9名

大原皓二委員（会長）、中村良則委員（副会長）、深澤あかね委員、
小原松雄委員、小原貞一委員、岩淵計委員、小国朋身委員、
鈴木淳子委員、佐藤恒委員

(2) オブザーバー 1名

岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課 佐藤淳一上席文化財専門員

(3) 事務局 7名

佐藤勝教育長、岩間裕子教育部長
文化財課：平野克則課長、柳原光浩課長補佐、伊藤真紀子文化財係長、
佐藤幸泰埋蔵文化財係長、酒井宗孝文化財専門官

4 内容

議題

- (1) 文化財ワークショップ及び現地調査の実施状況について
- (2) 文化財所有者等に対するアンケート調査結果について
- (3) 文化庁協議等による計画構成（案）の見直しについて
- (4) 今後の策定スケジュールについて

5 議事録

(1) 開会

（平野課長）

ただいまより、令和3年度第1回花巻市文化財保存活用地域計画策定協議会を開会いたします。はじめに花巻市教育委員会教育長の佐藤勝よりご挨拶を申

し上げます。

(2) 挨拶

(佐藤勝教育長)

おはようございます。大変早い時間からお忙しい中、ご出席いただき大変ありがとうございます。この協議会は一昨年6月のスタートでございますが、続けて委員をご承引いただきました。よろしくお願ひしたいと思います。また、今日は委員として、県の生涯学習文化財課の岩淵課長様にもご出席いただいております。そして同じく佐藤上席文化財専門員にもオブザーバーとして、ご参加いただき本当にありがとうございます。

この地域計画の策定作業を始めて、2年5ヶ月を経過しております。これまでの経過をたどって見たところ、文化財課ではこれまで、市内27のコミュニティー全地域でワークショップ、アンケート調査を行いましたほか、ワークショップで提示されました、地域の宝一件一件について現地調査を行い、総数1,645件の調査カードの作成等も進めてまいりました。また一方では、地域計画の構成案について関係機関のご指導を様々な機会にいただきながら、検討を加えてきた状況でございます。当初の計画では、令和2年度までの2年間で現地調査作業を終える予定でしたが、新型コロナウイルス感染症のためワークショップが予定通り開催できなかったこと、それから、資料数が思いのほか多く、現地調査がなかなかうまくできなかったことから、この時期までずれ込んでいる状況で、実際のところ苦戦をしながら進めているという状況であります。ただ一方、文化財課が地域の文化財について、地域との懇談を行うというのが今まであまり例がなく、そしてワークショップは初めてのことでございました。そういったことから、行うに際しては参加人数が少ないとか、地域の関心の度合いに差があったようですが、実施してみてそれぞれのコミュニティーから、地域にたくさんの文化財があることが初めて分かったとか、もっと地域として今後も関心を高めて取り組んでいきたいとか、あるいは文化財課で主催する文化財巡り等そういったフィールドワークについて参加したいなど、好意的な感想もたくさん寄せられており、この作業はとても有意義であったと確信しております。

本日は、会長、そして副会長のご選任をお願いいたしますほか、ワークショップ及び現地調査の実施状況、文化財所有者のアンケート調査結果、計画構成案、今後のスケジュールについてと、盛りだくさんでございますがご報告し、ご意見を賜りたいと思っております。令和5年8月の完成を目標として作業を進めてまいりたいと考えておりますので、委員の皆様からご意見をいただき、より確かで内容のある計画を目指してまいりたいと存じます。是非、忌憚のないご意見をたくさん賜ればありがたいと存じます。今日はどうぞよろしくお願

いたします。

(3) 会長及び副会長の選任

(平野課長)

次に、会長及び副会長の選任に入ります。初めに、会長の選任をお願いいたします。いかがでしょうか。

(事務局案との声)

はい、よろしければ事務局案を示させていただきたいのですがよろしいでしょうか。

(異議なしの声)

事務局といたしましては、会長には大原皓二委員に再度お願いしたいと考えております。いかがでしょうか。

(異議なしの声)

はい、ありがとうございます。それでは会長は大原皓二委員をお願いいたします。

次に副会長ですけれども、副会長にはどなたがよろしいでしょうか。

(事務局案との声)

はい、事務局案というお話がありましたので、事務局といたしましては中村良則委員に再度お願いをしたいと考えております。いかがでしょうか。

(異議なしの声)

はい、では副会長は中村良則委員をお願いいたします。よろしく申し上げます。

それでは会長に選任されました大原委員には、会長の席へお移り願います。はい、ここで大原会長からご挨拶をいただきたいと存じます。

(大原会長)

先ほど、佐藤教育長様からお話でしたが、私も4箇所ほど会場に同席させていただき、様子を伺ったところでございます。令和5年の認定を目指して、この策定協議会をさらに来年度3回、再来年度3回と開催が予定されているようでございます。図らずも会長ということで重責を担いますが、委員の方々のご協力をいただきながら目標に向かって進んでいければと思っております。引き続きよろしくお願いを申し上げます。

(平野課長)

はい、ありがとうございます。それでは議題に入ります。協議の進行につきましては当協議会設置要綱第4条第2項の規定により、会長にお願いすることと

なっておりますので、大原会長よろしく申し上げます。

(4) 協 議

(議長 大原会長)

ア 文化財ワークショップ及び現地調査の実施状況について

(大原会長)

はい、それでは早速議題を進めて参ります。最初に1番の「文化財ワークショップ及び現地調査の実施状況について」をご報告していただきます。

(柳原課長補佐)

「資料No.1 文化財ワークショップ及び現地調査の実施状況について」
説明（議事録への記載省略）

(大原会長)

はい、ただいまの「文化財ワークショップ及び現地調査の実施状況について」の、ご報告内容につきまして何かお尋ね、またご意見等ございましたらお伺いいたします。はい、お願いします。

(岩淵委員)

現在、有形はそのとおりなのですが、無形の文化財もクローズアップされていると思ってしまして、ここでいうと無形民俗文化財の分け方の中で衣食住、生業が幾つか挙げられていますが、例えばどういったものがあるのかを分かる範囲で結構なので、少し具体的に教えていただければありがたいと思います。

(柳原課長補佐)

はい、無形の文化財ということで分類をしている衣食住と生業ですね。

(平野課長)

正確ではないかもしれませんが、私もワークショップ全てに参加しました。その際に出てきた話ですけれども、衣食住につきましては、昔食べていたその地域の伝統食、いわゆる行事食という話を大迫地域では受けました。生業については、その地域に昔からある伝統的な業ということで、これも大迫だったのですけれども「たばこ」と、今は珍しくなりましたが、鍛冶屋の話がありまし

た。あとそれ以外に東和では現在指定文化財になっている成島和紙。そして花巻は、指定文化財になっていませんが花巻こけし、そういったものがこの中では取り上げられています。

(岩淵委員)

ありがとうございました。お宝というと有形文化財に目が行きがちなところもあるのですが、無形民俗文化財も大事にしていただければと思いますので、よろしく願いしたいと思います。

(平野課長)

おそらく実際には、その伝統的な食とか生業という部分ではまだまだたくさんあるのかとは思いますが、地域に出かけて行ったワークショップの中では、そういった話が出てこなかったというのもありましたので、残念ながらこの分野での取り上げの件数が非常に少ないと感じております。これとは別に、昔から行われている伝統的な工芸というのも市内にたくさんありますので、その伝統的工芸の支援をどのようにしていけばいいのか、このままだと廃れてなくなっていく伝統工芸等もたくさんあり、そういった部分も今後調査をしながら、できる支援について検討していきたいと考えております。

(岩淵委員)

よろしく願いいたします。

(大原会長)

はい、ほかにございますか。はい、どうぞ鈴木委員。

(鈴木委員)

はい、地域づくり課の鈴木でございます。ワークショップについてお尋ねしたいのですが、3年間にわたって開かれたワークショップで、参加された方の年齢層ですとか性別について、傾向がありましたら教えていただきたいのですが。

(柳原課長補佐)

はい、参加者はご高齢の方が多く、男性が多い傾向にあったと感じております。

(大原会長)

よろしゅうございますか？はい、どうぞ。

(鈴木委員)

女性の方で参加された方もいらっしゃいましたか。

(柳原課長補佐)

はい、もちろん女性も参加されておりました。ただ、ご高齢の方がほとんどでございました。

(平野課長)

参加された方々を見ると、もともと歴史文化に興味がある方々が集まり、いろいろなサークル活動をしている地域がありますので、そういった地域については女性も男性もそれなりの人数が参加されましたけれども、全くそういった素地がなく何も活動をしていない地域については、参加者は全部高齢男性の方でした。

(大原会長)

よろしゅうございますか。

(鈴木委員)

今、無形文化財の話も出ましたが、地域の伝統食ですとか慣習、そういったところにつきましては女性の視点というのにも必要かなと思いましたが、参加なさる女性を増やせばまた、上がってくる件数も変わってきたかもしれないなということでお聞きしてみました。以上です。

(大原会長)

よろしゅうございますか。はい、ほかにございますか。はい、中村副会長。

(中村副会長)

中村です。今の鈴木委員のお話と関連するかと思うのですが、ワークショップは今年度で全て終わりということですよ。今となってみればもう遅いのかもしれませんけれども、例えば大学とか高校、そういう場所でワークショップをもし開けたら、また少し変わった形になるのではと思いました。そのためにはワークショップを開くときに、市内にこういう文化財がありますとか、それから、こういう景観がありますなど幾つか典型的な例を出して、それを街中、例えばマルカンで若者を集めワークショップ開くという形にすると、また少し

変わった観点で新しい文化財の掘り起こしがあったのかもしれないと思いました。もし、可能性があればまだ年度が残っていると思いますので、追加的な形でワークショップになるのか、意見を聞く場になるのかはわかりませんが、若い人たちの声を聞いてみるというのもよろしいのではないかと思います。

(平野課長)

はい、ありがとうございます。確かにその通りだと私も感じました。今年度まだ時間がありますので検討をいたします。そして、今進めなければいけないのがこの計画を作成するという段階で、これからどのように保存管理をしていけばよいのかと、活用という部分を考えていく必要がありますので、そういった部分に焦点を当てた形で、若い人たちを対象とするワークショップを検討してまいりたいと思っております。

(大原会長)

はい、ほかには何かございますか。

(なしの声)

ないようですので、それでは「文化財ワークショップ及び現地調査の実施状況について」は、以上で終わります。

イ 文化財所有者等に対するアンケート調査結果について

(大原会長)

次に2番の「文化財所有者等に対するアンケート調査結果について」ご報告をお願いいたします。

(柳原課長補佐)

「資料No.2 文化財の管理に関するアンケート調査について」

「資料No.3 令和3年度 まちづくり市民アンケートについて」

説明（議事録への記載省略）

(大原会長)

はい、「文化財所有者等に対するアンケート調査結果について」のご報告がございました。このことに関しまして、皆様からご意見を賜ります。はい、どうぞ。

(中村副会長)

はい、中村でございます。詳細なアンケートを報告していただき、大変興味深いなと思えました。このようなアンケート調査の結果については、高齢者の人たちにとってみますと、後継者がいないとか補助金の問題など、様々なことで活動や文化財の管理に関して困難を抱えている方が多いということは、予想したとおりだと思います。そこで、様々な有形・無形文化財それから自然などがありますが、例えば緊急に保存しないといけないものは何なのか。それから、年次的に対応をとっていけば維持管理や継承が可能であるとか、そういう観点からこのアンケートが活用できるのか、できないのか、どうなのでしょう。

(柳原課長補佐)

はい、例えばアンケートの自由記載項目を見ましてすぐ対応をしなければならぬもの、樹木のケースだと枯れかけているまたは倒れかけて危ないなど緊急を要するものについては、アンケートに回答された時点で対応をさせていただいております。それ以外のものに関しましては、これから詳しい分析をして優先順位的なものを専門の方々からお聞きしながら判断し、対応していかなければならないと思っております。また、費用負担につきましては今年度から市単独の補助事業の対象事業や補助金額を拡充しました。補助金額ですが今まで50万円だったものを200万円まで増額し、対応をさせていただいております。現在、要望が多数ありますのでそれに基づいて予算要求しながら対応しております。

(中村副会長)

はい、どうもありがとうございます。有形文化財や自然など、物であれば対応できることは結構あると思えます。しかし無形文化財・民俗文化財の場合、人がいないとどうにもならないことが多いと思うのですが、無形文化財・民俗文化財の保存に関して緊急に対応できるもの、またはすべきもの、あるいはなかなか難しい、それから大丈夫だという、幾つかのパターンに分かれるかと思うのですが、そういう形で把握することは行っているのでしょうかということ

(平野課長)

はい、無形文化財・民俗芸能が主になると思いますが、これにつきましてはこのアンケートの通りで、実際多くの団体では後継者がいない、そして今現在活動されている方も高齢化で活動が難しくなってきた、ということがアンケート結果にもありますし、普段からもそういった話をお聞きしております。これ

については、これをやると解消するといった決定打的なものがなかなか私たちでも見出せないという状況です。そして、毎年1回ですが民俗芸能団体の方々と意見交換会をしております、その際も毎年同じような話になるのですが、自分たちの地域の中でそもそも民俗芸能を伝承していくような人が、見当たらなくなってきたこととか、今は民俗芸能以外にもっと楽しい活動等もあるということ、そちらのほうに目が行き、民俗芸能は廃れてきてしまっているといったような話もあります。そのような状況の中で昔の様に活動するということはなかなか難しいかもしれませんが、続けていくためにはどうしたらよいのか話し合いをしています。その際出てくる意見とすれば、今までは限った区域だけで伝承者を求めてきたのですが、それをもっと広い範囲から募集をかけたらどうなのかとか、民俗芸能団体同士が協力し合いながらやっていくなど、個々の地域だけでの活動が難しくなっているなら、複数の団体で一緒になって活動してもいいのではないかと、といったような話もございます。今回のこの地域計画の中で民俗芸能については、これからどうしていけばよいのかということも大きなテーマになってまいります。課題については先ほど申し上げたとおり、後継者がいないということは把握できていますが、具体的にどのように進めていけばよいのか、といった部分については委員の皆様からも意見等いただきながらこの地域計画をまとめていきたいと思っておりますので、是非委員の皆様からもご意見等いただければ嬉しく思います。

(中村副会長)

何度も発言して申し訳ありません。おっしゃるとおり、なかなか難しいことだと思います。例えば、私の住んでいる地域でも神社のしめ縄を毎年、五つの班で順繰りに作るのですが今年見ていると、もうしめ縄を作るのは無理だから今年度、5年後のときにはコメリで買ってくるか、という話をするわけです。それが実態だろうと思います。決して地域に人がいないわけではなく、跡取りの方は各家いらっしゃるのだけれども、工場に勤めているサラリーマンは時間を取りづらく、やったこともないから難しいというのは、どの地域も同じだろうと思いますし、どの文化財確保に関しても似たようなものだと思います。それに対してどうすればよいか、なかなか名案が出てこないと思いますが、少なくとも現在の活動をアーカイブズみたいな形として残していくということも、一つの方向としてはあり得るし大事なことではないのかという気がするので、そのような事も考えていただければよいのかなと思っています。

(平野課長)

覚知されている伝統的な行事を映像として撮り、記録として残していくとい

うことも非常に大切なことだと思っておりますので、それについてもこの計画の中で是非書き込んでいきたいと思っております。

(大原会長)

はいどうぞ、小原さん。

(小原貞一委員)

保存や管理の関係では、予算的なことが非常に問題になり、それが一番多いと思います。私は、地域で中山間の事務局や多面的活動の事務局をやっておりますが、その中で指定文化財の桜についての補助を、県の林務関係で巨木の事業があるので、申請してみたらと他の団体から言われましたが、既に他のところに決まっております。林野庁関係の方にも申請して結局それも駄目でしたが、国の方から緑の基金で30万円ほど頂き、地元で事業を行ったことがあります。しかし神楽などについては中山間などの補助を使いたいが、宗教だから駄目だと言われ、お金は地域にあるのだが神楽については非常にやりにくいところがあります。一般的に中山間などの補助はかなり幅広く使える制度なので、地域の景観関係に利用し地域の人たちの人夫賃などに充ててそれなりにやっております。

(平野課長)

はい、ありがとうございます。このアンケートの中で、保存に係る経費等への助成について充実をして欲しいといったような意見が、どの文化財の分類でも多いわけなのですが、先ほど当課の柳原補佐からも話がありましたように、今年度から制度自体を大幅に見直しております。それについてはこのアンケートを配る際に併せて、このように充実しましたよということで、この対象者の皆さんにお知らせをしております。その結果、今年度は例年より非常に多い件数の修理や、樹木の育成についての補助要請がございます。いずれまた、私共で時期を見ながら何年かに一度は、こういった形で文化財の所有者等に対してお知らせをしていきたいと思っております。あと、先ほど小原委員からお話ししましたが、中山間や多面的の交付金を実施している地域につきましては、その交付金を地域の合意のもとに、上手に文化財の伝承活動や保存活動などに使っていただければ、効果としたら非常に大きいのではと思いますので、地域の中で今後とも文化財にご理解頂き、ご尽力いただければありがたいと思っております。

(大原会長)

はい、ほかにございますか。

(なしの声)

それでは「文化財所有者等に対するアンケート調査結果について」につきましては終わらせていただきます。

ウ 文化庁協議等による計画構成（案）の見直しについて

(大原会長)

続いて、「文化庁協議等による計画構成（案）の見直しについて」を御説明していただきます。資料は4になります。

(柳原課長補佐)

「資料No.4 文化庁協議等による計画構成（案）の見直しについて」
説明（議事録への記載省略）

(大原会長)

はい、「文化庁協議等による計画構成（案）の見直しについて」の御説明がございました。このことに関しまして、皆さんから御意見を賜ります。

(小原貞一委員)

新項目に生態系が追加になり、その中にニホンカモシカが全域に生息しているということで、私は山沿いに住んでおり、ニホンカモシカが保護されているため、農作物の被害が増え過ぎて大変な問題となっています。同様にニホンジカも増えておりこれについては駆除していますが、ニホンカモシカは逃げないうえに庭先まで現れて農作物を食べて甚大な被害となっております。そんなときラジオで古い法律によってニホンカモシカを保護しているため、被害が増え続けているのに、国会でもどこでも全然取り上げられないのが不思議だということを知りました。とにかくあまりにも被害が大き過ぎて、これから大変な問題になると思うので、文章表現を配慮するような協議ができないものかと思いました。

(平野課長)

はい、ニホンカモシカの件ですが、岩手県ではどれくらいの頭数がどの地域に生息しているか調査をしています。その結果、あまりにも増え過ぎた場合には、何らかの対策をとる計画を立てていると思われました。それで、この花巻地

域においてはどうかなのかということですが、生息数の調査等は市独自で行ったことはございません。これは想像でしかありませんが、ニホンカモシカの死骸があった際はそれを花巻市で処理するという事になっており、その件数を見ると今年、去年は少ないです。一昨年は倍ぐらいあったので、もしかするとニホンカモシカの生息数は花巻市内においては減ってきているのではないのかと思っております。ニホンカモシカは有害鳥獣ではないので駆除することは出来ません。ですから非常に申し訳ございませんが、被害に遭われている方については電気柵を張るなど自己防衛をしていただければ助かります。

(大原会長)

はい、どうぞ。

(岩淵委員)

ニホンカモシカについてですけれども、ニホンカモシカは特別天然記念物に指定されておりまして、簡単に駆除出来ないことになっているものでございます。岩手県のほうでもその生息数の調査をやっておりますけれども、簡単に言うとその生息数が増えているような状況にはなっていないと考えているところなんです。ただ、その生息する場所についてニホンカモシカというのは、もともと高地に生息している動物なのですが、恐らくいろいろな環境の変化、ニホンジカの生息数が増えてきたり、あるいは里山の状況が変わってきたりというものもあるかもしれませんが、以前より生息する場所が下がってきている傾向はあるのかなと思ってるところです。そのため国と県のほうでも補助金を用意しておりまして、ニホンカモシカの食害等を防ぐため、電気柵または忌避剤などでニホンカモシカが近づかないように対策を立てているところでございます。地域的に様々状況が異なることもあるかと思いますので、全県的にそういう状況をできるだけ把握したいと今考えているところでございます。

(大原会長)

はい、ほかにございますか。はい、どうぞ。

(佐藤上席文化財専門員)

文化庁の方とも協議をしていただき、構成などいろいろご指導をいただいた点を改善されて、基本的にはこのような方向性で進めばよろしいかと思っております。一つは、資料4から3枚目の目指す方向性でございますが、この「知る」「守る」「活かす」ということでよろしいかと思っております。「知る」というところで文化財の調査・研究と価値の共有化となっておりますが、具体的な方

策の中でもその「調査・研究」という文言をどこかに入れていただければよろしいのではと思います。また、文化財の周知の徹底というところでは調査研究を方策にし、その構図の組織の中には文化財調査報告書の刊行はもちろん、様々な調査研究を行っていただければよろしいかと考えているところです。もう一つは構成案の見直しについて、花巻市の場合（５）の偉人（人物）というところが特色になるかと思しますので、ここをどのような中身にしていくかご検討頂ければよろしいかなと考えております。地域計画構成案の見直しの２枚目３、文化遺産から見た歴史文化の特色というところに関して（４）に記念物とありますが、これは天然記念物ということではよろしいですか。

（柳原課長補佐）

はい。

（佐藤上席文化財専門員）

はい、わかりました。それならよろしいかなと思います。最後ですが、序章と第２章の１、２、３は、文化財課の方でお書きになり、それ以外のところは有識者となっていますが具体的にどんな方々にお願いするのか、個人のお名前ではなくてよろしいのでお聞きできればと思います。よろしくお願ひいたします。

（平野課長）

はい、有識者のイメージですけれども、これは私共の課に文化財専門官という職員がおりますので、その者を有識者ということで考えております。あと、そのほかには博物館の館長、文化財保護審議会の先生を想定しております。そして、協議会の先生方にも執筆を依頼するという部分も出てくるかと思しますので、その際はよろしくお願ひいたします。

（佐藤上席文化財専門員）

はい、わかりました。多くは、外部の方というより内部の方とか、周りの近い方々で執筆なさるといふようなことでございますね。

（平野課長）

はい、これは文化庁との協議の際に指導等もあったのですが、外部の方にお願ひをすると後々修正等が必要になった場合、相当苦勞するといった実例もあるということでしたので、自分たちがお願ひしやすい、そして日頃から話をしながら書いていただけるような方がよろしいでしょう、といった話もございましたので、内部の有識者を中心に執筆についてはお願ひしたいと考えております。

す。

(佐藤上席文化財専門員)

はい、わかりました。よろしく願いいたします。

(大原会長)

はい、ありがとうございます。他にございますか。はい、小国委員。

(小国委員)

はい、少し気になったところがありまして、資料No.4文化庁の協議の中で、この協議会を開いた最初に、計画の目的や方針とは何なのかという話を皆さん疑問に思い、話されたような記憶をしております。さらに、文化庁からも目的を明確にしてくださいと指摘を受けていますが、それは今回の見直しで出てきますか。つまり、その目的をこれから考えるのか、それともこの中にもう入っているのか教えてください。

(柳原課長補佐)

はい、この計画の文書の中に入れなさいという指示がありましたので、今回、箇条書にして文化庁に示しました。この示した内容を、計画の本文の中に明確に書いて下さいという指示です。

(小国委員)

これからということで、よろしいですか。今この場でこのような方針・目的ということではないですね。実は、私の立場としては民俗芸能の保存をどうしたらよいのか悩んでおり、アンケートの結果を見ても61団体のうち半分はもう継続できないと出ているので、それをどうすればよいのかが頭の痛いところがあるので、それがこの計画を作ることによって、保存できるようになるのかというところが欲しいと思います。そして、見直しの案を見ても文化財は所有者が管理していくものなので、それを全体で考えるきっかけにしたいということですが、きっかけが目的になっているように見受けられる。さらには次の行で具体的な指針がないということではなく、この計画で具体的な指針を創ったらいいのではないですか。ないからこれを策定するというのではなく具体的な指針を創るためにこの計画があるということではないでしょうか。したがって次の計画の案を期待して、花巻市の文化財の保護および活用の方も大事ですので、目に見える形で現れるのを楽しみにしたいと思います。以上です。

(大原会長)

はい、小国委員ありがとうございます。お立場上いろいろご心配のこともあるうかと存じます。しっかりとその辺も盛り込めればいいのかと私も思います。ほかにございますか。

(なしの声)

はい、それではないようですので「文化庁協議等による計画構成（案）の見直しについて」を終わります。

エ 今後のスケジュールについて

(大原会長)

4番の「今後の策定スケジュールについて」に入ります。説明をお願いいたします。

(柳原課長補佐)

「資料No.5 今後の策定スケジュールについて」説明
(議事録への記載省略)

(大原会長)

はい、「今後の策定スケジュールについて」、ご説明がございました。このことにつきまして、ご質問ご意見ございますか

(なしの声)

よろしゅうございますか。今後の策定スケジュールは、ただいまご説明があったとおりに進めてまいりますということでございます。

(異議なしの声)

ご了承いただいたということで4番を終わらせていただきます。
これで協議を閉じます。

5 その他

(大原会長)

それでは、5番その他につきましてお願いいたします。

(柳原課長補佐)

「資料No.6、7、8、9、10」について説明
(議事録への記載省略)

(大原会長)

はい、ありがとうございます。皆さんから何かほかにございますか。

(なしの声)

はい、ないようでございますので、協議を終了します。

6 閉 会

(平野課長)

それではこれもちまして、「令和3年度第1回花巻市文化財保存活用地域
計画策定協議会」を終了させていただきます。ありがとうございました。